

第65回 日本生殖医学会学術講演会

発表番号 ; P-221

Web開催, 2020. 12. 3-23

題名 ; 不妊治療患者における性機能障害に関する検討

貫井李沙, 井上朋子, 森下みどり, 寺脇奈緒子, 小宮慎之介, 浅井淑子, 姫野隆雄, 森本義晴
HORACグランフロント大阪クリニック

(背景) 性機能障害とは「満足な性交が行えない」である。男性の場合は勃起障害, 射精障害, 性欲障害, オーガズム不十分などが挙げられるが, 女性では性交痛による性交障害が重要であり, 膣痙攣や処女膜強靱症, 女性性器の炎症などによる器質性の性交障害, また心因性の性交忌避症による性交障害, さらに性欲障害, オーガズム不全などがある。〈BR〉(目的) 性機能障害のある不妊治療患者の検討を行い、今後の治療方針の検討を行う。〈BR〉(方法) 2019年1月~2019年12月までに初診で来院した患者を対象として治療方法、妊娠率、性機能障害原因についての検討を行う。〈BR〉(結果) 2019年1月~2019年12月までに来院した患者694名のうち32名(4.6%)が性機能障害が主訴であった。平均年齢 37 ± 4.6 歳であった。原因として射精障害8名(25%)、勃起障害2名(6%)、性欲障害15名(46%)、性交痛7名(21%)であった。治療方法はタイミング療法3名、人工授精9名、体外受精14名、妊娠率はタイミング指導3名(100%)、人工授精3名(33%)、体外受精3名(21%)であった。